

■株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
利益配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
公告掲載新聞	日本経済新聞
名義書換代理人	三菱信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 〒171-8508
お問い合わせ先 郵便物送付先	東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120-707-696 (受付時間 土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
同取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
各種手続用紙のご請求	住所変更、配当金振込指定・変更に必要な各用紙および株式の相続 手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル(0120- 86-4490)で24時間承っておりますので、ご利用ください。

MEET
YOUR
DELIGHT **JT**

日本たばこ産業株式会社 事業報告書

Welcome to
the Delight World **JT**
Vol.9

株主の皆様へ

2005年3月期決算のご報告 (2004年4月1日から2005年3月31日まで)

文豪たちとたばこ

幸田露伴

マールポロ・ライセンス契約終了後の事業展開

ニュース掲示板

JT商品のご案内

- 「飲茶楼(やむちゃろう)」好評発売中
- Senoby [セノビー] 好評発売中
- 「うずらのたまごと野菜入りだんごの串揚げ」好評発売中
- 「海鮮ロールキャベツ 和風仕立て」好評発売中

MEET YOUR DELIGHT 「チャレンジャーたちの軌跡」

- SEC創世記 気持ちよく、気兼ねなく——分煙の取り組み

株式の諸手続について

表紙の花：ハナショウブ

日本たばこ産業株式会社

〒105-8422 東京都港区虎ノ門2-2-1 JTビル

電話：03-3582-3111

<http://www.jti.co.jp/>



この事業報告書はエコマーク認定の再生紙(古紙100%)を使用するとともに、大豆油インキを使用しています。

MEET
YOUR
DELIGHT **JT**



2005年3月期を 振り返って

2005年3月期は増収増益となりました。前期に続いて営業利益、経常利益は最高益を更新し、3期連続の最高益更新となりました。

■表1 (単位:億円)

	2004年3月期 実績	2005年3月期 実績	増減
税込売上高	46,251	46,645	393
税抜売上高	20,198	20,139	△58
EBITDA (注)	3,734	4,001	266
営業利益	2,340	2,733	393
経常利益	2,135	2,702	566
当期純利益	△76	625	701
株主資本当期純利益率	△0.5%	4.2%	4.7%
フリーキャッシュフロー	2,691	2,694	2

(注) EBITDA=営業利益+減価償却費

我が国の経済情勢は昨今、やや薄日が差してきましたが、収益の太宗をなす国内外のたばこ事業を取り巻く環境は日に日にその厳しさを増しています。そうした事業環境の中で、このような業績を残すことができたということは、各事業の事業戦略が妥当であったこと、また、その事業戦略に則り、全社一丸となって奮闘した結果であると考えています。

セグメント別ではたばこ事業も増収増益となりました。

■表2 たばこ事業 (単位:億円)

	2004年3月期 実績	2005年3月期 実績	増減
税込売上高	42,369	42,841	472
国内たばこ事業	34,982	34,942	△40
海外たばこ事業	7,387	7,899	512
税抜売上高	16,315	16,336	20
国内たばこ事業	12,286	12,055	△230
海外たばこ事業	4,029	4,280	250
EBITDA (注)	3,431	3,608	177
営業利益	2,384	2,596	212

(注) EBITDA=営業利益+減価償却費

国内たばこ事業は伸長セグメント(タール1mg市場、メンソール市場及びプレミアム市場)でのシェア拡大などにより、シェアを維持するとともに単価も増加しました。海

外たばこ事業もGFB(グローバル・フラッグシップ・ブランド)^(注)を中心に期待を上回る実績をあげた結果、たばこ事業は売上高、利益ともに増加しました。

(注) GFBとは、国際的な主要ブランドである「キャメル」、「ウィンストン」、「マイルドセブン」、「セーラム」を指します。

医薬事業は主に導出に伴う一時金収入が貢献し、増収増益となりました。食品事業も計画を1年前倒しで、営業利益の黒字化を達成しました。

■表3 医薬事業、食品事業 (単位:億円)

	2004年3月期 実績	2005年3月期 実績	増減
医薬事業売上高	512	576	64
医薬事業EBITDA (注)	△44	54	98
医薬事業営業利益	△128	18	146
食品事業売上高	2,501	2,653	152
食品事業EBITDA (注)	33	79	46
食品事業営業利益	△48	19	67

(注) EBITDA=営業利益+減価償却費

医薬事業と食品事業の事業価値を今後更に増大させていくにあたり、海外の有力製薬企業への導出や食品事業の黒字化といった進展によって、私どもも自信を一層、深めたところ です。

2006年3月期の 展望

2006年3月期においても、利益水準の更なる向上を目指していきます。

これまでの2年間の施策効果が実現し、かつ2006年3月期は2005年3月期のような大きな特別損失を見込んでいないことから、当期純利益も最高益となり、株主資本当期純利益率も2ケタ台に到達する見込です。なお、フリーキャッシュフローに関しては、希望退職に伴う退職金支払等により減少しますが、「JT PLAN-V」期間の累積フリーキャッシュフローは6,000億円を超え、経営目標^(※)を大幅に上回る見込です。

※「JT PLAN-V」における累積フリーキャッシュフローの経営目標は4,500億円

■表4 (単位:億円)

	2005年3月期 実績	2006年3月期 業績予想	増減
売上高	46,645	46,400	△245
EBITDA (注)	4,001	4,230	228
営業利益	2,733	2,970	236
経常利益	2,702	2,930	227
当期純利益	625	1,800	1,174
株主資本当期純利益率	4.2%	11.4%	7.2%
フリーキャッシュフロー	2,694	1,080	△1,614

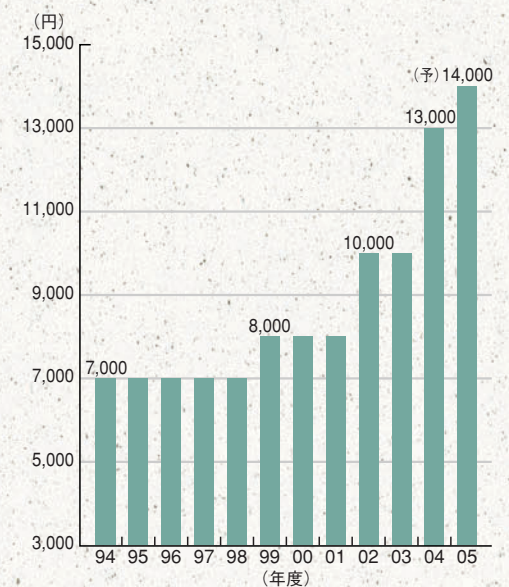
(注) EBITDA=営業利益+減価償却費

配当

2005年3月期の配当については、普通配当の増配と記念配当を実施し、年間配当金を1株当たり13,000円とさせていただきます。

配当については、各期の連結業績に応じた適切な配分を通じて、資本市場における競争力ある株主還元を目指すことを基本方針としています。その方針のもと、中期的な成長戦略の実現状況及び連結業績見通しを踏まえつつ、配当水準の継続的な向上に努めていきます。2006年3月期の配当はこの方針に基づき、1株当たり14,000円を予定しています。

■1株当たりの配当金の推移

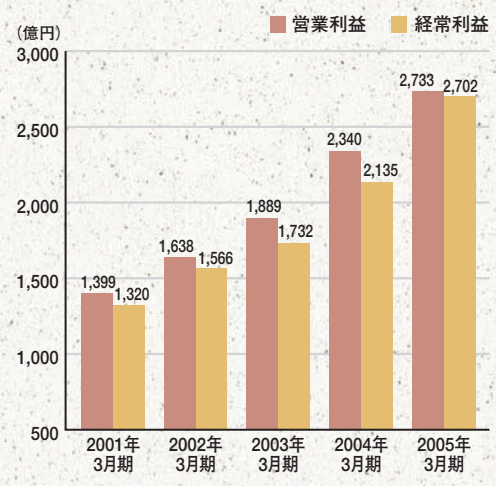


「JT PLAN-V」の
完遂に向けて

国内外のたばこ事業を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。そうした環境変化の中であって、3年連続の最高益更新(営業利益、経常利益)を実現できたのは、全社員の努力はもとよりですが、これに加えて、目指す姿を株主の皆様を始め、広く社会に示し、有言実行に努めてきたこと、常に最適な事業体制を追求し、追加的施策を含め、迅速かつ着実に実行してきたことも大きな要因であると考えています。

今後とも将来に亘って、様々な事業環境の変化が起こればと考えられますが、皆様にお示しした経営計画を着実に実行し、持続的な成長を実現していきたいと考えています。

■営業利益、経常利益の推移



2005年6月
代表取締役社長

本田 勝彦

●将来に関する記述等についてのご注意

本資料に記載されている、当社又は当社グループに関連する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価等といった、将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の日付時点における予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・予想を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし事実または前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。また、あらたな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社が将来の見通しを見直すとは限りません。これらの記述ないし事実または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり、将来実現しないという可能性の原因となりうるリスクや要因は多数あります。その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます(なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません)。

- (1) 喫煙に関する健康上の懸念の増大
- (2) たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更(増税、たばこ製品の販売、マーケティング及び使用に関する政府の規制等)、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
- (3) 国内外の訴訟の動向
- (4) たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
- (5) 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
- (6) 市場における他社との競争激化、銘柄嗜好の変化
- (7) 買収やビジネスの多角化に伴う影響
- (8) 国内外の経済状況
- (9) 為替変動及び原材料費の変動

TOP *i* n t e r v i e w

社長インタビュー



マールボロに関するライセンス契約が2005年4月末で終了し、マールボロがライバルのブランドになりますが、今後はどのように戦っていくのですか。

2003年8月の契約終了の合意以降、当社は様々な準備を行ってきました。今後とも引き続き、新製品投入等により、マールボロに対抗しうる製品群の強化を図るとともに世界的なブランド力を有するキャメル、ウィンストンなどの活用を通じ、マールボロ包囲網を構築していきます。

2005年度の国内たばこ事業の課題はこの新たな競争環境のもとで、戦いに勝利することに尽きます。「JT PLAN-V」後の安定した成長の実現のためにも、この1年の戦いぶりが非常に重要であると考えています。

海外たばこ事業は2005年に入ってから引き続き、順調ですか。

前回の事業報告書(Vol.8)でご報告しましたとおり、海外たばこ

事業はJTグループの利益成長の牽引役として、「JT PLAN-V」における期待水準を越える利益創出を展望できるまでに至りました。2005年においても引き続き、GFB(グローバル・フラッグシップ・ブランド)のブランド価値強化と中核市場の育成を通じて、業界最速の利益成長ペースを維持し、利益目標達成を目指します。なお、この1-3月期も着実なスタートを切ったと考えています。

医薬事業の事業目標は達成可能ですか。

医薬事業は「世界レベルの新薬になりうる化合物の3品目臨床入り」を事業目標として取り組んでいます。

2004年度は大きな進捗があった年でした。2品目^(注1)が臨床入りし、また、有望な臨床開発品^(注2)を世界有数の製薬企業へ導出すること等により、事業価値の早期実現に具体的な成果を挙げる事ができました。

2005年度も引き続き、これまで

市販用を中心に
冷凍加工食品が順調に
売上を伸ばしました。



新鮮卵のふっくらオムレツ



れんこんはさみ揚げ



あざりと筍ごはん

の事業戦略を踏襲していきます。最近の事業成果の通り、これまでの研究開発投資が着実に実を結びつつあり、事業目標の達成に十分な手応えを感じているところです。

(注1) 抗HIV薬「JTK-303」及び高脂血症（脂質代謝異常）治療薬「JTT-302」

(注2) 高脂血症（脂質代謝異常）治療薬「JTT-705」及び抗HIV薬「JTK-303」

食品事業が黒字化しましたが、この要因は何ですか。

食品事業の事業目標は「次の飛躍に向けたステップとして、2005年度に営業利益黒字化を実現する」ということでしたが、その目標を1年前倒して達成しました。加工食品事業が順調に推移したこと、飲料事業の収益性が改善したことが営業利益黒字化の要因です。

今年度は黒字体質を確固たるものにするとともに、次の成長に向けた更なる事業価値の増大を図ります。

2005年3月期は増配となりましたが、今後の利益配分についての考え方を聞かせてください。

当社は、積極的な事業投資による持続的な利益成長の実現を通じて、企業価値を中長期的に増大させていくことが、株主の皆様を利益を増大させることの基本と考えています。

配当については、各期の連結業績に応じた適切な配分を通じて資本市場における競争力ある株主還元を目指すことを基本方針としています。その方針のもと、中期的な成長戦略の実現状況及び連結業績見通しを踏まえつつ、配当水準の継続的な向上に努めていきます。

また、内部留保資金については、その使途として、足許及び将来の事業投資、外部資源の獲得に充当するとともに、有利子負債の圧縮、経営の選択肢拡大に向けた自己株式の取得にも努めていきます。

営業の概況

たばこ事業

国内たばこ事業では、売上成長戦略として、伸張セグメントであるタール1mg市場、メンソール市場及びプレミアム市場を中心に新製品の積極的投入を行い、また、地域限定で発売していた新製品のうち、お客様の支持が強い製品について販売エリアの拡大を行うとともに、市場特性に応じた積極的かつ効率的な販売促進活動に努めました。具体的には、昨年7月、8都道府県において、8ブランド12銘柄（タール1mg製品は1銘柄、メンソール製品は4銘柄、300円以上製品は9銘柄、D-spec製品は2銘柄）を地域限定で発売するとともに、本年2月からは、12府県において、表1のとおり、6ブランド6銘柄（タール1mg製品は2銘柄、メンソール製品は2銘柄、300円以上製品は5銘柄、D-spec製品は3銘柄）を地域限定で発売しました。また、「マイルドセブン・プライム・メンソール・ライト・ボックス（昨年9月から）」他5銘柄を全国拡販するとともに、「マイルドセブン・プライム・ライト・ボックス」他6銘柄の販売エリアの拡大を行いました。なお、「ピース・アロマメンソール・ボックス」他3銘柄については、表2のとおり、本年4月25日より全国拡販しています。

コスト構造改革としましては、中期経営計画「JT PLAN-V」で掲げた諸施策の着実な実行とともに、不断のコスト削減努力により、継続的にコスト競争力の強化に努めています。たばこ製造工場については、

本年3月末に7工場の閉鎖等を行い、本年4月から全国10工場体制とし、国内原料部門についても、昨年7月より、組織再編を段階的に実施しています。また、当社グループの外国産葉たばこ原料購買機能の最適化に向け、昨年4月より機能再編及び組織変更を進めており、その一環として、昨年9月以降、海外子会社JT Proserve Inc.の解散・清算に向けた手続きを行っています。さらには、葉たばこ原料処理工場のうち都城工場を本年3月末に閉鎖しています。

また、昨年8月の葉たばこ審議会において、2005年産葉たばこの耕作契約にあたり、個々の農家の耕作希望を調査する際、一定の面積または年齢の基準に該当する農家の方々を対象に、廃作の希望を募る旨の諮問を行い、諮問のとおりのお返事をいただきました。お返以降、該当する農家の方々を対象に、廃作の希望を確認し、本年2月に、2005年産葉たばこの耕作契約を行いました。

当連結会計年度における国産紙巻たばこの販売数量は、総需要の減少傾向が続く中、2003年7月からのたばこ税の増税実施に伴う定価改定の影響により、前年度に比べ50億本減少し、2,132億本^(注)（前年度比2.3%減）、シェアは前年度と変わらず72.9%、千本当税売上高は、積極的な新製品の投入効果等により3,941円（前年度比33円増）となりました。

(注) 国内たばこ事業には、当該数値の他に、国内免税市場及び当社の中国事業部管轄の中国・香港・マカオ市場の当連結会計年度における販売数量51億本があります。

表1

銘柄	価格	初期発売地域	備考
セブンスター・レボ・ライト・メンソール・ボックス	300円	群馬県・長野県	メンソール製品・D-spec製品
ルーシア・シトラスフレッシュ・メンソール・ワン	300円	愛知県	メンソール製品・D-spec製品
フロンティア・ネオ・ボックス	300円	岐阜県	D-spec製品
マイルドセブン・スーパーライト・エコスタイル	270円	三重県	
りん	350円	京都府・滋賀県・福井県・石川県・富山県	
さくら	300円	鹿児島県・宮崎県	

(注) D-spec製品:当社独自の低臭気技術を活用した製品

表2

銘柄	価格	備考
ピース・アロマメンソール・ボックス	300円	メンソール製品
セブンスター・ライト・ボックス	280円	
ホープ・スーパーライト	140円	
キャスター・クールバニラ・メンソールボックス	270円	メンソール製品

海外たばこ事業では、JTインターナショナルを中核として、より一層の利益増を主眼に、GFBに代表される高価格製品へのシフトを中心とした、単価上昇を伴う数量成長を目指してきました。

当連結会計年度における海外の紙巻たばこの販売数量は、一部市場において増税・値上げ等に伴う減少はあったものの、GFBの成長がこれを上回ったことから、前年度に比べ136億本増加し、2,124億本（前年度比6.8%増）となりました。GFB販売数量は、CIS地域（特にロシア、ウクライナ）やヨーロッパ地域（特にイタリア、ドイツ）における「ウinston」、イタリア、スペイン、メキシコ等での「キャメル」、台湾での「マイルドセブン」が好調に推移したこともあり、前年度に比べ139億本増加し、1,314億

医薬事業

医薬事業では、自社における研究開発力の一層の充実・強化を進めています。開発状況としましては、血液凝固阻止薬「JTV-803」の開発を中止しましたが、抗HIV薬「JTK-303」及び高脂血症（脂質代謝異常）治療薬「JTT-302」が臨床開発段階に移行したことにより、現在、自社開発品6品目が臨床試験の段階にあります。

なお、昨年10月、高脂血症（脂質代謝異常）治療薬「JTT-705」について、日本・韓国を除く全世界での独占的開発・商業化権をスイスのロシュ社へ、また本年3月には、抗HIV薬「JTK-303」について、日本を除く全世界の独占的開発・商業化権を米国ギリアド・サイエンシズ社へ導出するライセンス契約をそれぞれ締結しました。

また本年3月、当社は東レ(株)と鳥居薬品(株)との間で、血液透析患者における掻痒症を対象とする東レ(株)開発の化合物である新規止痒薬について、国内における共同開発及び販売権に関する契約を締結しました。

一方、2003年7月にギリアド・サイエンシズ社より日本における独占的商業化権を取得した抗HIV薬3品のうち「ピリアード」については、昨年3月に輸入承認を取得し、

本（前年度比11.8%増）と、順調な成長を見せました。

この結果、国内たばこ事業における販売数量の減少による影響はありましたが、海外たばこ事業におけるGFBの販売数量の伸張等により、売上高は4兆2,841億円（前年度比1.1%増）となりました。利益面では、国内たばこ事業における販売単価の上昇やコスト削減、海外たばこ事業における利益成長により、営業利益は2,596億円（前年度比8.9%増）となりました。

また、当連結会計年度における紙巻たばこの生産数量は、4,076億本（前年度比2.9%増）となりました。

※海外たばこ事業については、2004年1～12月の実績を当連結会計年度の実績としています。

同年4月より鳥居薬品(株)において販売を開始しており、他の2品、「エムトリバ」と「ツルバダ」についても輸入承認を本年3月に取得し、同年4月より鳥居薬品(株)において販売を開始しました。

米国アグロン社と共同開発し、米国、欧州及び日本等で販売されている抗HIV薬「ビラセプト」のロイヤリティ収入につきましては、市場における競争の激化を受けたことにより、減少しました。

また、鳥居薬品(株)につきましては、昨年4月に実施された薬価改定の影響のもと、主力品である蛋白分解酵素阻害剤「注射用フサン」、尿酸排泄薬（痛風治療薬）「ユリノーム」、外用副腎皮質ホルモン剤「アンテベート」等が伸張し、抗HIV薬「ピリアード」を昨年4月から販売開始したことにより売上高は増加したものの、肝臓疾患用剤・アレルギー用薬「強力ネオミノファーゲンシー」の売上高の減少及び昨年10月にシート状生物学的組織接着・閉鎖剤「タココンプ」をZLBベアリング(株)へ販売移管した影響により、減収となりました。

この結果、売上高は鳥居薬品(株)における減収、「ビラセプト」のロイヤリティ収入の減少はあったものの、高脂血症（脂質代謝異常）治療薬「JTT-705」のロシュ社への導出

に伴う一時的な収入があったことにより、576億円（前年度比12.6%増）となりました。利益面では、この一時的収入に加え、当社における研究開発費の減少及び鳥居薬品(株)

医薬事業 臨床開発品目（2005年4月27日現在）

開発名	開発段階	適応症	詳細	権利
JTE-607 (注)	国内:Phase2 海外:Phase1	全身性炎症反応症候群	全身性炎症反応症候群（敗血症など）において生じる炎症性サイトカインの産出を抑制することにより、症状を改善する全身性炎症反応症候群治療薬	
JTT-705 (経口)	国内:Phase1	高脂血症 (脂質代謝異常)	HDL(高密度リポ蛋白:善玉コレステロール)中のコレステロールをLDL(低密度リポ蛋白:悪玉コレステロール)に転送するCETPを阻害することにより、血中HDLを増加させる脂質代謝異常治療薬	スイスのロシュ社と日本・韓国を除く全世界の開発・商業化権を導出するライセンス契約を締結(2004年10月)
JTK-003 (経口)	国内:Phase2 海外:Phase2	C型肝炎	HCVの増殖に関わる酵素であるポリメラーゼを阻害することにより抗ウイルス活性を示し、C型肝炎を治療するHCV RNAポリメラーゼ阻害剤	
JTT-130 (経口)	国内:Phase2 海外:Phase1	高脂血症	MTPを阻害することにより、コレステロール及びトリグリセリドの吸収を抑制し、脂質値を低下させる高脂血症治療薬	
JTK-303 (経口)	国内:Phase1	抗HIV	HIV(ヒト免疫不全ウイルス)の増殖に関わる酵素であるインテグラーゼの働きを阻害するインテグラーゼ阻害剤	米国ギリアド・サイエンシズ社と日本を除く全世界の開発・商業化権を導出するライセンス契約を締結(2005年3月)
JTT-302 (経口)	海外:Phase1	高脂血症 (脂質代謝異常)	HDL(高密度リポ蛋白:善玉コレステロール)中のコレステロールをLDL(低密度リポ蛋白:悪玉コレステロール)に転送するCETPを阻害することにより、血中HDLを増加させる脂質代謝異常治療薬	

食品事業

食品事業では、新製品の開発・投入及び販売チャネルの強化に努めるとともに、市場状況に応じた弾力的かつ機動的な事業運営を行い、事業価値の増大を積極的に推進しました。

加工食品事業では、市販用冷凍食品の「大人気!」シリーズ、「いまどき和膳」シリーズ等のラインナップの充実・強化や昨年度実施した豪州におけるチルド加工食品分野の事業譲受等により事業規模が拡大するとともに、収益力の強化に向けた取り組みを推進しました。

飲料事業では、自動販売機オペレーター子会社である(株)ジャパンビバレッジを中心とした着実な拡大を図るとともに、事業

の株式取得にかかる連結調整勘定の償却が前年度で終了したことにより、営業利益は前年度に対し146億円増加し、18億円（前年度は128億円の営業損失）となりました。

全般にわたる徹底的な効率化に取り組んでいます。また、基幹ブランドである「ルーツ」、「セノビー」における新製品等の積極的な投入に加え、昨年9月のおやつ系飲料の新ブランド「Miss Parlor」の立ち上げ及び本年3月の中国ブレンド茶「飲茶楼」の再発売等、差別化を追求した新製品を積極的に開発・投入しました。

この結果、売上高は加工食品事業における事業規模の拡大及び飲料自動販売機販路の拡大が、飲料事業における不採算販路の整理等による減少を上回り、2,653億円（前年度比6.1%増）、営業利益は前年度に対し67億円増加し、19億円（前年度は48億円の営業損失）となり、中期経営計画「JTPLAN-V」で目標としていた営業利益の黒字化を一年前倒して達成しました。

度比34.1%減）、営業利益は104億円（前年度比12.9%減）となりました。

(注) 昨年4月に、当社が保有していたジェイティブロブプリント(株)、特許紙器(株)、(株)ジービーワンの全株式を凸版印刷(株)へ譲渡し、当連結会計年度より連結の範囲から除外しています。

その他事業

その他事業では、不動産事業において前年度に一時的な売却収入が発生していたことや、印刷事業関連の子会社株式を譲渡したこと^(注)等により、売上高は572億円（前年

■ 連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	2005年3月期 (2005年3月31日現在)	対前期増減
資産の部		
流動資産	1,504,448	26,599
固定資産	1,477,579	△ 73,571
有形固定資産	639,655	△ 68,566
建物及び構築物	256,858	△ 42,679
機械装置及び運搬具	140,610	△ 1,479
器具及び備品	50,836	1,076
土地	170,946	△ 8,421
建設仮勘定	20,402	△ 17,062
無形固定資産	569,708	△ 40,797
連結調整勘定	321,414	△ 10,166
商標権	211,523	△ 34,074
その他	36,770	3,443
投資その他の資産	268,215	35,792
繰延資産	27	△ 55
資産合計	2,982,056	△ 47,027

2004年3月31日現在との比較です。

当社が所有する大規模商業施設6物件につき、不動産信託を設定した上で、当該信託受益権をフロンティア不動産投資法人へ譲渡しました。この譲渡などにより、減少しました。

事業取得時の取得価額と時価純資産との差額です。主に、RJRインターナショナル(現JTインターナショナル)の取得時に生じました。

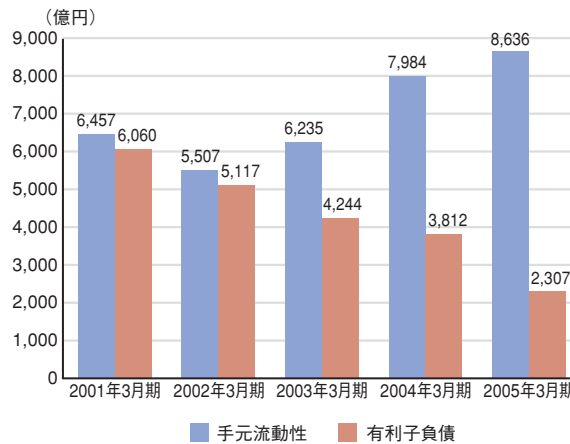
主な内容は、RJRインターナショナル(現JTインターナショナル)取得時にあわせて取得したCAMEL、Winston、SalemといったGFB(グローバル・フラッグシップ・ブランド)の商標権です。

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位:百万円)

科目	2005年3月期 (2005年3月31日現在)	対前期増減
負債の部		
流動負債	742,338	△ 14,373
固定負債	687,916	△ 22,693
負債合計	1,430,255	△ 37,066
少数株主持分		
少数株主持分	53,596	△ 227
資本の部		
資本金	100,000	—
資本剰余金	736,400	—
利益剰余金	805,927	42,156
その他有価証券評価差額金	16,888	2,702
為替換算調整勘定	△ 86,433	△ 14,593
自己株式	△ 74,578	△ 39,999
資本合計	1,498,203	△ 9,733
負債、少数株主持分及び資本合計	2,982,056	△ 47,027

主に、社債の償還により、減少しました。



(注) 手元流動性=現預金+有価証券+CP現先
有利子負債=短期借入金+社債+長期借入金

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	2005年3月期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	対前期増減
売上高	4,664,513	39,362
売上原価	3,713,725	29,712
売上総利益	950,788	9,649
販売費及び一般管理費	677,416	△ 29,687
営業利益	273,371	39,337
営業外収益	15,949	5,628
営業外費用	19,069	△ 11,685
経常利益	270,251	56,651
特別利益	79,288	49,931
特別損失	248,206	△ 2,358
税金等調整前当期純利益	101,333	108,941
法人税、住民税及び事業税	70,071	2,583
法人税等調整額	△ 38,506	33,795
少数株主利益	7,184	2,376
当期純利益	62,583	70,186

GFB(グローバル・フラッグシップ・ブランド)販売数量の伸長等による海外たばこ事業の増、加工食品事業の事業規模拡大に伴う食品事業の増等により、増収となりました。

営業利益は経常利益とともに3期連続の最高益更新となりました。国内たばこ事業における新製品投入効果やコスト削減、海外たばこ事業の利益成長、医薬事業における導出に伴う一時金収入、食品事業の黒字化等により、増加しました。

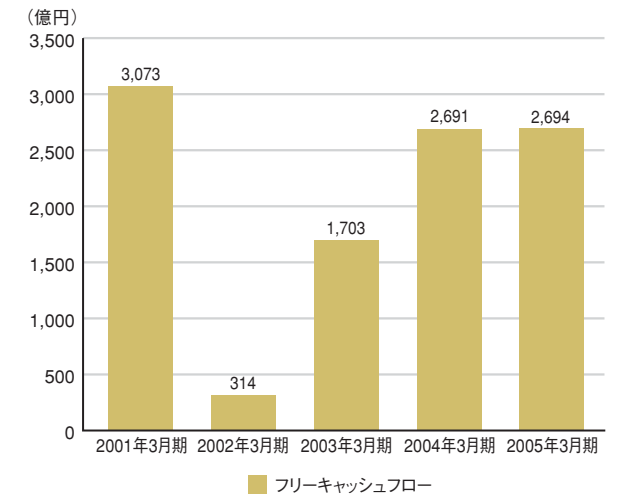
希望退職の実施等に伴い、事業構造強化費用が1,840億円増加しましたが、フロンティア不動産投資法人への固定資産(信託受益権)譲渡に伴う特別利益を計上したこと、前期に共済年金給付負担金一括処理額1,850億円を特別損失に計上していましたが、当期にはこのような要因がなかったこと等から特別損益が改善し、増加しました。

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	2005年3月期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	対前期増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	250,839	△ 83,661
投資活動によるキャッシュ・フロー	176,914	405,534
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 202,195	△ 92,861
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,867	6,258
現金及び現金同等物の増減額	227,426	235,269
現金及び現金同等物の期首残高	601,661	△ 983
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	—	△ 6,860
現金及び現金同等物の期末残高	829,087	227,426



(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

フリーキャッシュフロー=営業活動によるキャッシュ・フロー+投資活動によるキャッシュ・フロー
但し、事業の主目的以外の項目(金融投資等)に所要の調整を加えて算出しています。

■ 個別財務諸表

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	2004年3月期 (2004年 3月31日現在)	2005年3月期 (2005年 3月31日現在)
資産の部		
流動資産	989,485	975,215
現金及び預金	59,090	23,217
受取手形	524	903
売掛金	51,477	54,132
有価証券	23,561	3,014
商品	2,002	2,254
製品	29,434	33,788
半製品	160,900	140,309
原材料	99,285	80,769
仕掛品	6,569	5,249
貯蔵品	8,436	8,921
前渡金	19,985	4,854
前払費用	5,364	5,076
繰延税金資産	23,634	27,478
キャッシュ・マネージメント・システム預託金	481,534	564,938
その他	17,946	20,574
貸倒引当金	△ 263	△ 266
固定資産	1,619,727	1,573,708
有形固定資産	485,601	434,582
建物	229,383	194,508
構築物	11,227	7,419
機械及び装置	68,735	68,571
車両及び運搬具	212	164
器具及び備品	12,663	11,310
土地	153,955	148,727
建設仮勘定	9,423	3,880
無形固定資産	177,043	143,971
営業権	3	2
特許権	14,100	9,892
借地権	126	126
商標権	150,868	122,145
意匠権	20	12
ソフトウェア	11,576	11,545
その他	347	247
投資その他の資産	957,083	995,155
投資有価証券	58,393	63,699
関係会社株式	769,041	764,123
関係会社出資金	2,112	2,315
関係会社長期貸付金	17,289	17,520
長期前払費用	9,109	6,762
繰延税金資産	91,591	125,816
その他	15,971	19,583
貸倒引当金	△ 3,490	△ 4,665
投資評価引当金	△ 2,937	—
資産合計	2,609,212	2,548,924

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位:百万円)

科目	2004年3月期 (2004年 3月31日現在)	2005年3月期 (2005年 3月31日現在)
負債の部		
流動負債	475,156	462,299
買掛金	16,397	15,481
一年以内返済予定の長期借入金	17,424	17,417
一年以内償還予定の社債	122,000	—
未払金	81,532	215,522
未払費用	8,423	2,903
未払たばこ税	57,136	57,169
未払たばこ特別税	14,987	14,996
未払地方たばこ税	71,160	69,411
未払法人税等	28,669	26,900
未払消費税等	31,605	23,442
前受金	1,035	633
預り金	1,723	1,045
前受収益	174	314
賞与引当金	21,050	13,981
その他	1,835	3,080
固定負債	576,579	558,837
社債	150,000	150,000
長期借入金	45,795	28,377
退職給付引当金	326,704	231,091
役員退職慰労引当金	327	283
預り敷金及び保証金	37,905	10,901
長期未払金	15,846	138,183
負債合計	1,051,736	1,021,136
資本の部		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	736,400	736,400
資本準備金	736,400	736,400
利益剰余金	744,134	751,508
利益準備金	18,776	18,776
任意積立金	642,887	695,437
特別償却準備金	320	230
圧縮記帳積立金	52,581	58,315
圧縮記帳特別勘定	5,485	3,691
別途積立金	584,500	633,200
当期末処分利益	82,469	37,294
その他有価証券評価差額金	11,521	14,457
自己株式	△ 34,579	△ 74,578
資本合計	1,557,476	1,527,787
負債及び資本合計	2,609,212	2,548,924

損益計算書

(単位:百万円)

科目	2004年3月期 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)	2005年3月期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)
売上高	2,694,310	2,685,948
売上原価	2,126,538	2,114,049
売上総利益	567,771	571,898
販売費及び一般管理費	408,331	382,288
営業利益	159,439	189,609
営業外収益	15,205	17,140
受取利息	364	456
有価証券利息	136	83
受取配当金	8,093	9,229
関係会社賃貸収入	2,531	1,860
その他	4,079	5,511
営業外費用	20,324	12,630
支払利息	1,403	1,010
社債利息	4,861	2,490
たばこ災害援助金	3,641	1,099
為替差損	2,790	335
共済年金給付費用	2,776	2,292
貸倒引当金繰入額	183	110
その他	4,668	5,291
経常利益	154,320	194,120
特別利益	30,458	77,426
固定資産売却益	16,624	73,009
退職給付制度一部終了益	9,870	—
投資評価引当金戻入益	3,571	1,296
その他	391	3,119
特別損失	237,517	236,575
固定資産売却損	3,570	1,572
固定資産除却損	9,141	11,388
事業構造強化費用	32,015	218,647
葉たばこ廃作協力金	—	4,227
事業整理損	5,730	—
共済年金給付負担金一括処理額	185,095	—
その他	1,964	739
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	△ 52,738	34,971
法人税、住民税及び事業税	47,495	47,995
法人税等調整額	△ 70,700	△ 40,054
当期純利益又は当期純損失(△)	△ 29,533	27,030
前期繰越利益	20,003	20,035
共済年金給付負担積立金取崩高	102,000	—
中間配当額	10,000	9,771
当期末処分利益	82,469	37,294

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

利益処分

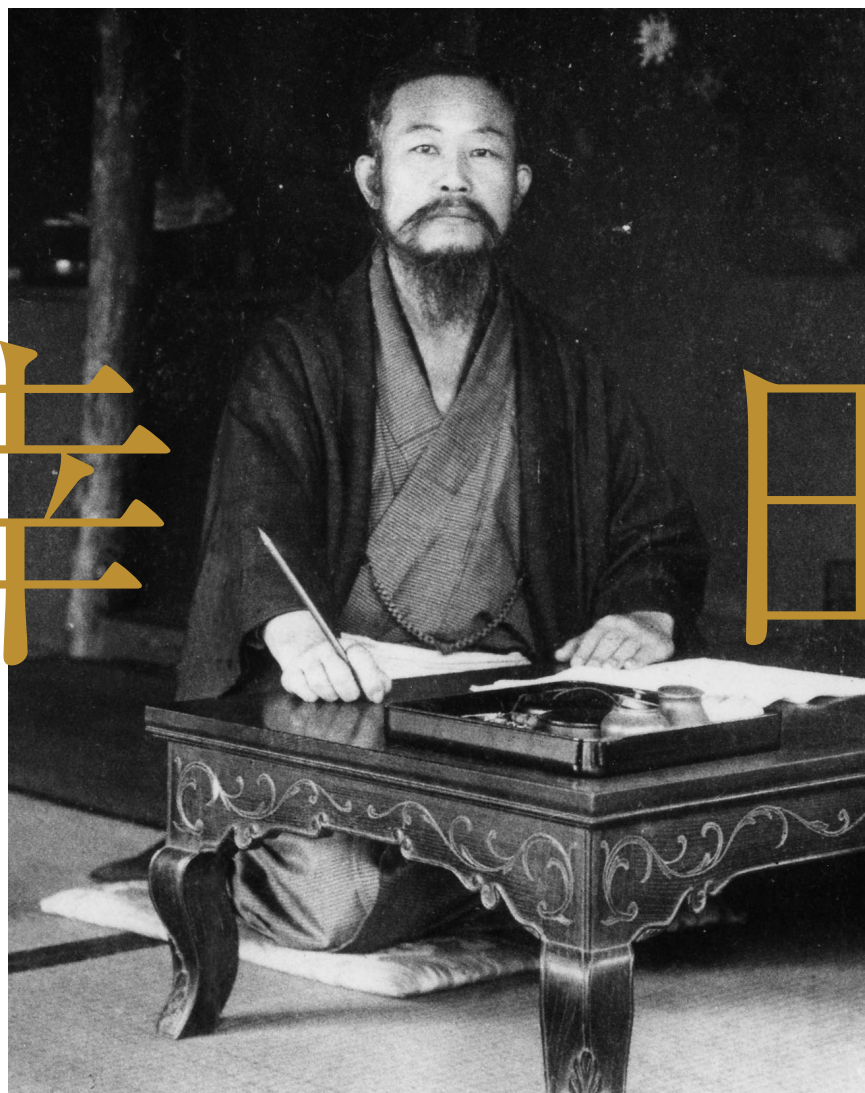
(単位:百万円)

科目	2004年3月期 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)	2005年3月期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)
当期末処分利益	82,469	37,294
任意積立金取崩額		
特別償却準備金取崩額	89	77
圧縮記帳積立金取崩額	2,049	6,346
圧縮記帳特別勘定取崩額	5,137	3,691
合計	89,746	47,410
利益処分額		
利益配当金	9,771	15,328
	(1株につき5,000円)	(1株につき8,000円)
		うち普通配当7,000円
		記念配当1,000円
役員賞与金	114	148
(うち監査役賞与金)	(20)	(20)
任意積立金		
圧縮記帳積立金	7,782	5,889
圧縮記帳特別勘定	3,342	3,183
別途積立金	48,700	—
次期繰越利益	20,035	22,861

(注)1. 特別償却準備金、圧縮記帳積立金及び圧縮記帳特別勘定の取崩額並びに圧縮記帳積立金及び圧縮記帳特別勘定の積立額は、租税特別措置法に基づくものであります。

2. 2003年12月2日に10,000百万円(一株につき5,000円)の中間配当を実施いたしました。

3. 2004年12月1日に9,771百万円(一株につき5,000円)の中間配当を実施いたしました。



幸田露伴



明治時代のきせるとたばこ盆



尾崎紅葉、坪内逍遙、
森鷗外と並んで
「紅露道鷗」時代を築き上げた
文豪・幸田露伴。
初期の代表作『五重塔』で
描かれる
登場人物たちと「たばこ」の
関係とは？

『五重塔』は、幸田露伴（1861-1947）の初期の代表作であり、明治24年（1891）から同25年（1892）にかけて、新聞に連載発表された。

作品のあらすじは、谷中感応寺の五重塔建立に際し、感応寺を普請した棟梁・源太に用命が下ることがほぼ決まっていたところへ、優れた腕を世に認められる機会がなかった大工・十兵衛が、一生に一度の仕事として是非とも自分の手で建てたいと望み、これも絶対に譲れない源太が、ついには譲って、十兵衛に会心の仕事をさせるという、職人根性の物語である。

作品の中に、たばこの種類や銘柄などは全く示されていないが、舞台になっている時代は江戸時代であり、「きせる」が登場し、また、たばこを「捻る」といった表現があり、当然「きざみたばこ」が吸われていたはずである。

作中でたばこを嗜むのは、十兵衛、源太、源太の女房・お吉、源太のところに入りする大工・清

吉の4人である。

主人公の十兵衛の喫煙の場面に、

『其顔を覗き込む女房の真実心配さうなを見て、何か知らず無性に悲しくなって、……、煙草捻って何気なくもてなすことはもてなすものの言葉もなし。』

という一節がある。これは、喫煙する場面ではなくて、喫煙しない場面である。

朗円上人の御諭しをきいて家に帰った十兵衛が、五重塔建立のことをどうしても辞退したくないが立場としては辞退しなければならぬ、そうすれば二度とおのれの名を残す仕事をする機会はない、と迷わなければならない自分自身に腹が立ち、悲しくなり、その動揺を無理に押し隠そうと、煙草を捻って何気ないふうを取り繕っているところである。この場面からは、悩みごとを他人に話して分かってもらおうとはせず、独りで考えこみ、とことん悩んでしまう十

兵衛の性格が浮かび上がってくる。

この作品の舞台となった時代は、たばこが商品として広く流布し、庶民の間に愛好者が増えた時代である。作中、生活が豊かでないさそうな十兵衛も、大工の清吉もたばこを嗜んでいる。源太はたばこの小道具にもずいぶん凝っているし、お吉も気のきいた喫煙具を持ち、長火鉢のわきで吸っている。

露伴はこの作品の中で、たばこを吸うか吸わないかを人物の気性を示すものとして使い分けたり、喫煙という何気ない行動に人物の感情を込めているようである。そこから、たばこが生活の中に溶け込み、人の気持ちにさりげなく寄り添う姿が見えてくる。

TASC研究報告 文学作品にみる嗜好-4
「明治文学にみる嗜好品」より
（昭和54年3月（財）たばこ総合研究センター）
写真提供：毎日新聞社

マイルポロ・ライセンス事業展開 契約終了後の

4月末をもって、約30年間続きましたフィリップモリス社とのマイルポロのライセンス契約が終了しました。今後は、世界第1位、日本で第2位のブランドであるマイルポロが、JTの商品構成から外れ、ライバルブランドとなります。同契約終了後においても、新製品の積極投入など製品ラインアップの強化等を通じて、全社一丸となって成長戦略を推進していきます。

シェア反転攻勢に向けて

- **マイルポロ・ライセンス契約終了への備え**
 - 2004年 1月 ● テストマーケティング手法として地域限定の新製品大量投入を本格的に開始
 - 2004年 3月 ● 既存ブランドのデザイン刷新を本格的に開始
 - 2004年 10月 ● JT国際製品との販売統合を合意

2005年4月末をもって、約30年間続いたマイルポロのライセンス契約が終了しました。契約終了後の競争環境の変化に備え、2003年8月の契約終了に関する合意以降、当社は様々な準備を行ってきました。一つは、マイルポロに対抗する製品群の強化や新製品の開発投入、もう一つは世界的なブランド力を有するキャメル、ウィンストンなどの活用です。

マイルポロはシェア9%を超えるブランドです。このため、単一のブランドで対抗するのではなく、新製品や、5月からJTの製品ラインアップに加わったキャメル、ウィンストンなどのGFB（グローバル・フラッグシップ・ブランド）を活用します。GFBは、世界中のお客様に親しまれており、大きなブランド力を有しています。今後はマイルポロに代えて、これらのブランドをJTの強力な営業部隊と自販機網がサポートし、JTの総合力をもって、日本国内においてもさらに成長させていきます。

また、4月25日より「ホープ・スーパーライト」等の銘柄が全国拡販となりましたが、4銘柄を一挙に全国拡販するのは初めてとなります。

セブンスターやホープはマイルポロの競

合銘柄であり、また、マイルポロ対抗上、メンソール製品のラインアップ強化は不可欠です。

この他、中期経営計画「JT PLAN-V」においては、今年度も10銘柄以上の新製品投入を予定しています。こうした取り組みを通じて、マイルポロ包囲網を構築していきます。

●商品戦略

新製品とキャメル等を活用したマイルポロ包囲網の構築
→2005年度も10銘柄以上の新製品投入（地域限定を含む）を実施予定



新製品投入と既存製品によるシェア奪取

新製品によるシェア奪回に向けて、大量の新商品を地域限定で発売しました。発売時のキャンペーンなどによって、お客様の

声を直接お聞きすることにより、投入された新商品個別の商品力の検証を行い、望ましい商品への改善につなげてきました。

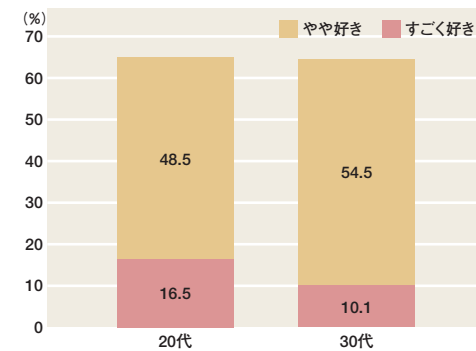
これまで投入した新製品群はマイルポロを含む競合銘柄から一定のシェアを奪っており、こうした新製品の投入がシェア奪取につながるものと確信しています。

既存ブランドの刷新も重要です。マイルドセブンのデザイン変更は20代、30代のお客様から好意的な評価をいただいております。ブランドの若返りを図ることができました。このデザイン変更などにより、マイルドセブンのシェアは2003年度から反転し、2004年度は一層のシェア拡大に成功しました。

キャビン、キャスター、フロンティアなどの既存ブランドについてもデザインを変更し、若い年代のお客様からはおおむね、好意的な評価をいただいております。これらのブランドについても、デザイン変更や新製品投入を契機として、長期的なシェアの低下傾向に一定の歯止めがかけられたものと考えています。

●既存製品の刷新によるシェア奪取

マイルドセブンのデザイン変更に対する評価
→「色が明るく若さを感じる」、「マークに躍動感がある」等の好意的コメント



今後の事業課題

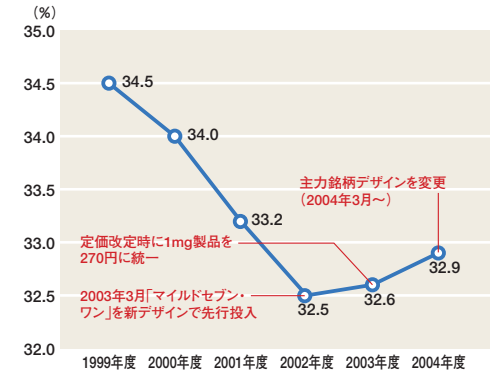
- **売上成長に向けて**
成長戦略の実行による税抜売上高の向上
D-spec (低臭気製品) カテゴリーの確立
- **商品力、営業力の強化**
新製品の積極的な投入
→市場順位60位以内を期待できる銘柄を育成
独自性を有する競争優位のデザイン創出
マーケティング投資の効率性向上

2005年度は成長戦略に専念する年と位置づけています。

売上成長に関しては税抜売上高を向上させていくことに果敢に挑戦していますが、そのためには300円以上価格帯でのシェア伸張は不可欠であり、そのけん引役として、D-spec (低臭気製品) カテゴリーを早期に確立させていきたいと考えています。

この他にも、新製品の積極的な投入を継続し、市場に根付く製品の育成やデザイン面での競争優位性の維持・強化などに取り組んでいきます。

マイルドセブンのシェア推移
シェアは反転し、拡大基調へ





■戦うほどに輝きを増す「マイルドセブン・ルノーF1チーム」 「ブルーウィンド」が世界中のサーキットを席卷!!

「マイルドセブン」は、ブランドの象徴である「ブルーウィンド」(*)を世界中でPRするため、今年も全19戦のF1グランプリに参戦しています。



「マイルドセブン・ルノーF1チーム」は、今まさに黄金期を迎えようとしています。

開幕戦・オーストラリアグランプリ (GP) でジャンカルロ・フィジケラが、そして続く第2戦・マレーシアGPでフェルナンド・アロンソが優勝を飾りました。この勢いに乗り第3戦、第4戦でも、アロンソが優勝。破竹の3連勝を果たし、世界中の人々に「ブルーウィンド」を鮮烈にアピールしました。

第5戦・スペインGPでは、アロンソの地元ということもあり、10万人以上の超満員の観客がアロンソに声援を送り、スタンド一面が青一色に染まるほどの熱狂振りでした。残念ながら優勝は逃しましたが、2位と健闘し、シーズン開幕から圧倒的な強さを誇示しています。

「赤い跳ね馬」が牛耳ってきたF1界を青く染め変える「ブルーウィンド」は、熱心なF1ファンだけでなく、今や世界中の人々の注目を集める存在となっています。

「赤い跳ね馬」が牛耳ってきたF1界を青く染め変える「ブルーウィンド」は、熱心なF1ファンだけでなく、今や世界中の人々の注目を集める存在となっています。

(※)ブルーウィンド：マイルドセブンの新しいマークの名称です。

■7月のレース・スケジュール

7/ 3 (日)	第10戦	フランスGP
7/10 (日)	第11戦	イギリスGP
7/24 (日)	第12戦	ドイツGP
7/31 (日)	第13戦	ハンガリーGP

■JT初。4銘柄を、4月25日より一挙全国拡販

JTは、現在、地域限定にて販売中だった4銘柄を、4月25日より全国販売しました。これまで3銘柄を同時に全国拡販・全国発売したことはありませんが

(1988年「フロンティア」ファミリー3銘柄)、4銘柄を一挙に全国拡販するのは初めてとなります。



「ホープ・スーパーライト」

製品サイズ：フィルター付70mmレギュラーサイズ
フィルタータイプ：チャコールフィルター
タール値：6mg
ニコチン値：0.5mg
包装形態：10本入 シェル & スライドボックス
定価：140円

●販売エリア
2004年7月より北海道
2005年4月より全国



「セブンスター・ライト・ボックス」

製品サイズ：フィルター付キングサイズ
フィルタータイプ：チャコールフィルター
タール値：7mg
ニコチン値：0.7mg
包装形態：20本入 ハードパック
定価：280円

●販売エリア
2004年7月より福岡県
2005年4月より全国



「キャスター・クールバニラ・メンソール・ボックス」

製品サイズ：フィルター付キングサイズ
フィルタータイプ：プレーンフィルター
タール値：3mg
ニコチン値：0.3mg
包装形態：20本入 ハードパック
定価：270円

●販売エリア
2004年7月より静岡県
2005年2月より大阪府、奈良県以西（福岡県、宮崎県、鹿児島県を除く）に拡販
2005年4月より全国



「ピース・アロマメンソール・ボックス」

製品サイズ：フィルター付キングサイズ
フィルタータイプ：プレーンフィルター
タール値：7mg
ニコチン値：0.6mg
包装形態：20本入 ハードパック
定価：300円

●販売エリア
2004年7月より愛知県
2005年2月より静岡県、山梨県、および新潟県、栃木県、茨城県以東のエリアに拡販
2005年4月より全国

JT商品のご紹介

「飲茶楼（やむちゃろう）」

好評発売中

- 「飲茶楼（やむちゃろう）」は、1999年に発売し、好評を得た商品です。2002年発売の「飲茶楼 彩美茶（やむちゃろう さいびちゃ）」を最後に販売を休止しましたが、中国茶専門の喫茶店の増加など、近年の中国ブレンド茶市場の高まりを背景に改めて発売しました。
- 香味は、ジャスミン茶・烏龍茶・プーアル茶等7種類の中国素材(*)をブレンドし、すっきりと

した味に仕上げました。
●パッケージは初代「飲茶楼」の中国情緒あふれるデザインイメージを踏襲しつつ、新鮮感を付与し、洗練されたデザインとしました。なお、デザイナーは香港出身の有名デザイナー、アラン・チャン氏を起用しています。

(※)7種類の中国素材：ジャスミン茶、烏龍茶、プーアル茶、羅布麻（らふま）、赤小豆（せきしょうず）、山査子（さんざし）、甘茶蔓（あまちゃづる）



好評発売中

500mlペットボトル/140円
(希望小売価格 消費税別)

Senoby [セノビー]

好評発売中

- 2002年の発売以来、ご好評をいただいていたSenoby [セノビー] が、新たにリニューアルして登場。MBP、カルシウム、CCPといった機能素材も従来通り使用しています。
- レモン果汁と乳成分を同時に発酵させた「レモン混合乳酸菌」を

使用することにより、従来の定評ある香味に、ほのかなレモン風味が加わり、よりすっきりと爽やかな香味に仕上げました。
●デザインは、新しいブランドロゴとモチーフに刷新し、「明るい」、「親しみやすい」ブランドイメージを表現しています。



好評発売中

500mlペットボトル/140円
(希望小売価格 消費税別)

「うずらのたまごと野菜入りだんごの串揚げ」

好評発売中

- 「大人気！」シリーズは、JTの冷凍調理品の柱と位置づけ、バラエティ豊かな商品ラインアップで、より個性化、多様化する様々なお客様のニーズにお応えしていきたいと考えています。
- 原材料や素材、製法にこだわり、

お弁当向けに彩り良く使いやすく仕上げたオリジナリティあふれるシリーズです。
●本品は、子供の大好きなうずらの玉子のお弁当用の串揚げです。いんげん、にんじん、玉ねぎ入りの白身魚のだんごと組み合わせました。



好評発売中

5本入 (100g) / 270円
(想定小売価格 消費税別)

「海鮮ロールキャベツ 和風仕立て」

好評発売中

- 「彩り和膳」は、「いまだき和膳」の姉妹シリーズと位置づけ、「いまだき和膳」の基本コンセプトを継承しつつ、食卓用途としての「ボリューム感」と「高品位」を訴求するシリーズです。
- 高齢化、世帯人数の少人数化等家庭の食卓事情も大きく変化しつつある中で、食卓用途に特化

した1パック2人前の本格的な和風メニューというコンセプトで「彩り和膳」シリーズを新たに設けて、本年3月1日に発売しました。
●和風だしでやわらかく煮込んだキャベツに、すり身・えび・いか・貝柱と海の幸いっぱいロールキャベツです。



好評発売中

4個入 (220g) / 390円
(想定小売価格 消費税別)

チャレンジャーたちの

【たばこの光を街にともせ】

SEC Social Environment Creation 創世記



省スペース型分煙機
(品川シーサイドフォレスト)

気持ちよく、気兼ねなく—— 分煙の取り組み



たばこを吸われる方、吸われない方双方に包括的にサポートを行うことにより、吸われる方からは「顧客満足」を、吸われない方からは「共感」を得るべく、両者の共存のために効果的な分煙環境を推進すること——。社会環境推進室 (SEC) のメンバーは、空気清浄機の開発や、分煙コンサルティング、換気システムの構築など、分煙の取り組みに挑む！

たばこに関する意識が高まるにつれて、オフィスや公共施設、商業施設など、さまざまな場所で分煙のニーズが高まっている。

これまでは、禁煙席と喫煙席を単純に分けただけのエリア分煙方式がほとんどだった。しかし、「煙が禁煙席の方まで流れてくる」という意見が多く寄せられるなど、たばこを吸われない方にとって十分なものとはなっていなかった。

社会環境推進室 (SEC) では、こうしたニーズに対応するため、2003年4月から「分煙コンサルティング」を実施している。これは、各施設の特徴や、利用者のニーズを分析し、現場調査やコンピュータによるシミュレーションなどを活用して、最適な分煙方法を提案するものである。

代表的な分煙の仕組みは、禁煙席から喫煙席への空気の流れをつくり、屋外へと排気するシステム。これにより、たばこの煙やニオイが禁煙席にまで流れ込むことを防ぎ、良好な空気環境を維持することができる。すでに大手ファミリーレストランチェーンの一部店舗などにも導入されるなど、ニーズに合わせた分煙方法のコンサルテ

ィングを行っている。

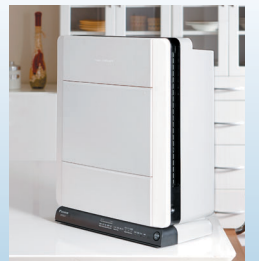
一般家庭向けには、空気清浄機の開発が挙げられる。空気清浄機の市場では、これまで、たばこのニオイや煙に着目した製品はほとんどなかった。また、たばこを吸われる方と吸われない方双方から新しい空気清浄機に対するニーズが寄せられていたことも事実であった。SECは、このニーズに着目し、空気清浄機の大手メーカーであるダイキン工業と共同で開発を行うこととなった。開発にあたり、ソフト面である製品コンセプトは共同で立案し、ハード面であるメカニカルな機能部分はダイキン工業が開発を行った。

そして、「たばこを吸われる方と吸われない方の双方にやさしい室内環境の創造」を目的とした、家庭用の新型空気清浄機「フラッシュストリーマ光クリエール PLUS (プラス)」を共同で開発し、4月1日からダイキン工業より発売している。

残念ながら、現在のところ、たばこのニオイを完全に除去する技術は存在しない。しかし、たばこを提供する企業として、JTはそ

の課題に挑戦し続けている。空気清浄機や施設設備など、知見を持つさまざまなメーカーとの協力のもと開発を進める一方で、2004年には分煙試験室を都内に新設した。たばこメーカーとして長年蓄積してきたノウハウと独自の視点を生かし、新たな分煙方法の可能性を模索している。

たばこを吸われない方が気持ちよく過ごせるとともに、吸われる方が気兼ねなくたばこを楽しめる——双方にとって快適な環境づくりのため、分煙コンサルティングが担う役割は、今後ますます重要になっていくはずだ。



開閉式パネルを閉めている時
高性能な空気清浄機としてお使いいただけます



開閉式パネルを開いている時
大きな吸い込み口がたばこの煙を一気にキャッチ!



JT独自の分煙実験室を設け、効果的な分煙について実験・研究を重ねています。

株式の諸手続について

●名義書換をするには？

新たに株式を購入されたり、保管振替制度のご利用を取りやめられた時には、お早めに名義書換の手続きをお取りください。名義書換の手続きがお済みでない場合には、株主総会の招集ご通知をはじめとした各種発送物がお手元に届かないばかりでなく、配当金等のお支払いについても以前の名義の方に支払われることとなります。

◎名義書換の手続き

①三菱信託銀行にお越しいただく場合

三菱信託銀行の本支店へ、株券と印鑑（お届出印となります）をご持参ください。その場で名義書換請求書にご記入していただき、いったん株式をお預かりして手続きをさせていただきます。手続きが終了し、お手元に株券が戻るまでには10日前後かかります。**書換手数料は不要です。**

②証券会社を通じて行う場合

証券会社でも名義書換を依頼することができます。必要なものは三菱信託銀行にお越しいただく場合と同じですが、**書換手数料がかかります**、また場合によっては手続きに時間がかかることもありますので、手数料額・所要日数等詳しくは当該証券会社におたずねください。

③郵便をご利用の場合

名義書換請求書を郵送するなど、名義書換に郵便をご利用になることもできます。詳しくは三菱信託銀行にお問い合わせください。

●住所変更をするには？

株主総会招集ご通知、郵便振替支払通知書（配当金通知書）、株主優待商品等のご登録の住所宛にお送りさせていただいております。引越し等により、ご住所に変更があった場合には、当社の名義書換代理人であります三菱信託銀行へ速やかにお届出をお願いいたします。

◎住所変更の手続き

①三菱信託銀行にお越しいただく場合

三菱信託銀行の本支店へ、お届出印をご持参ください。その場で変更届にご記入し、ご提出していただきますと、手続きをさせていただきます。手数料は不要です。

②郵便をご利用の場合

三菱信託銀行にお電話いただきますと、変更届をお送りいたしますので、必要事項をご記入のうえ、ご返送ください。株券のご提出は不要です。ご返送の費用についてはご負担いただくこととなりますが、それ以外には手数料はいただきません。

●配当金の受取方法は？

①配当金のお受取方法の種類

配当金のお受取方法については、現金受取と口座振込がございます。**口座振込をご選択いただきますと安全かつ確実に配当金をお受け取りいただけます。**

現金受取をご選択の株主様には、郵便局で受け取りができる証書（郵便振替支払通知書）をお送りいたしますので、お近くの郵便局でお早めにお受け取りください。

口座振込をご選択の株主様には、あらかじめご指定いただいた銀行・郵便局等の口座に配当金が直接振り込まれます。また、利益（中間）配当金計算書もお送りいたします。

②現金受取から口座振込への変更

現在、現金受取を選択されており、これから金融機関等への口座振込を希望される株主様は、当社の名義書換代理人であります三菱信託銀行へご連絡ください。

●配当金関係の書類が届かない場合、または郵便振替支払通知書を紛失した、あるいは払渡し期間を過ぎてしまった場合は？

上記の理由等により、配当金をお受け取りいただけなくなっている株主様は、三菱信託銀行へご連絡ください。

株式の諸手続きについてのお問い合わせ先は

当社株式の手続きにつきましては、下記、当社の名義書換代理人であります三菱信託銀行までお問い合わせください。また、同行本店ならびに全国各支店におきましても各種手続きのお取り次ぎをいたしますのでご利用ください。なお、住所変更、配当金振込指定・変更に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求につきましては、フリーダイヤル(0120-86-4490)で24時間承っておりますので、ご利用ください。

●お問い合わせ先

三菱信託銀行株式会社 証券代行部
フリーダイヤル 0120-707-696
(受付時間 土・日・祝日を除く 9:00～17:00)

郵便物送付先

三菱信託銀行株式会社 証券代行部
〒171-8508
東京都豊島区西池袋一丁目7番7号

各種手続用紙のご請求

フリーダイヤル 0120-86-4490
(三菱信託銀行 24時間テレホン自動音声応答サービス)

■役員（2005年6月24日現在）

取締役

代表取締役会長 涌井 洋治
代表取締役社長 本田 勝彦
代表取締役副社長 堀田 隆夫
代表取締役副社長 小幡 一衛
代表取締役副社長 西澤 省悟
取締役 金森 哲治
取締役 大久保憲朗
取締役 新貝 康司
取締役 木村 宏

監査役

常勤監査役 田中 寿
常勤監査役 住川 雅明
監査役 村山 弘義
監査役 藤田 太寅

執行役員

社長 本田 勝彦
副社長 堀田 隆夫
副社長 小幡 一衛
副社長 西澤 省悟
専務執行役員 松永 康正
専務執行役員 金森 哲治
専務執行役員 熊倉 一郎
専務執行役員 西原 孝治
専務執行役員 石黒 繁夫
専務執行役員 山田 良一
専務執行役員 下村 隆一
専務執行役員 岩波 正
専務執行役員 飯島 謙二
専務執行役員 久野 辰也
専務執行役員 小泉 光臣
専務執行役員 佐藤 誠記
専務執行役員 大久保憲朗
専務執行役員 塩澤 義介
専務執行役員 岩井 睦雄
専務執行役員 村井 良行
専務執行役員 新貝 康司
専務執行役員 志水 雅一

(コンプライアンス・財務・コミュニケーション・総務・法務・監査担当)
(企画責任者 兼 人事担当)
(たばこ事業本部長 兼 特機事業担当)
(たばこ事業本部 商品グループリーダー)
(食品事業本部長)
(たばこ事業本部 研究開発統括部長)
(たばこ事業本部 営業統括部長)
(医薬事業部 医薬総合研究所長 兼 医薬科学責任者)
(総務責任者)
(法務責任者)
(たばこ事業本部 製品開発統括部長)
(たばこ事業本部 製造統括部長)
(たばこ事業本部 原料統括部長)
(たばこ事業本部 事業企画室長)
(たばこ事業本部 渉外企画部長)
(医薬事業部長)
(食品事業本部 飲料事業部長)
(食品事業本部 食品事業部長)
(人事責任者)
(財務責任者)
(コミュニケーション責任者)

■株価の推移

